

育児休業に関する体験記 1

30代 359日間取得

①家事・育児について

1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか

育児については双子ということで私は長男、妻は長女と分担（基本は一対一）で行った。家事は分担せず「気づいた方」「育児が早く終わった方」がやるという自然の流れになっていった。家族を「チーム」として捉えお互いに「ありがとう」の言葉をかけ合い、普段の家事が当たり前にならないようにした。

2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について

育児はお風呂と寝かしつけ、家事は大人の夜ご飯作り・洗い物をする程度の参画で極端に減ってしまった。

(妻 記載欄) 休業取得者の家事・育児の参画の状況について

産後の床上げまでは一日三食を作ってくれた。三時間毎のミルク、おむつ替え、沐浴など卒なくこなしてくれた。

夫もはじめてのことばかりで大変だったと思うが、二人で協力して育児に取り組むことができた。子供たちも夫のことが大好きで、育休があげた今でも家族仲良く過ごしている。

②仕事について

1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか

休業取得前に上長と話し合っていたので問題なく引継ぎを行えた。

2. 評価・反省

通常と同様に問題なくできて良かった。

③自由記述

●育児を一人ですることの大変さを知ることができた

新生児の頃の三時間毎の授乳や寝かしつけ、ハイハイできるようになってからは何を触るかかわからないので目が離せず、一歳前後からは後追いが始まり、少しでも離れると激しく泣いてしまうようになりました。妻と二人で育児していても自分達のご飯を作ることも食べることも大変でした。

妻が外出した時などは一人で育児を行うこともあります。日々の買い物や子育て支援センターへの外出では、車に乗せるまでに双子をおんぶ、抱っこし、チャイルドシートに座らせ着いたら狭い車の中でおんぶ、抱っこしなければいけなく、とても大変で一人では簡単には外出できないとわかりました。育児休業を取得しなくとも休日に一人での育児をすることはあったと思います。

毎日、子供と長時間顔を合わせて育児をしているからこそその大変さがあります。休日にする抱っこでは筋力トレーニングくらいに思えても、毎日の抱っこだと足腰の疲労が取れることはありません。休日の一、二日間の育児では妻の大変さはわからなかったと思います。

仕事に復帰した現在では妻が毎日一人で育児を行ってくれています。一人での育児がどれほど大変かわかっているため、日々感謝しています。

●育児の悩みや喜びを夫婦で共有することができた

育児では悩みが絶えません。「母乳を飲まなくなった」「体重が思うように増えない」「寝返りが始まったら寝室どうしようか」「離乳食を全然食べてくれない」など、一つ悩みが消えても、また一つ増え子供の成長とともに際限なく悩みが出てきます。妻も私も育児一年生です。一人で抱えきれないくらいの悩みがありました。これらの悩みを妻と共に共有し問題解決の方法を話し合い、試行錯誤しながら解決してきました。

育児休業を取らなければ、これほど真剣に妻と一緒に悩みを共有できなかったと思います。

子供たちの成長を共に喜べるようになったのも育児休業を取得したおかげだと感じています。仕事に復帰してからは、日々の子供たちの成長の様子は妻から聞きます。「今日は昨日より沢山歩けるようになった」「子育て支援センターにある〇〇のおもちゃで遊べるようになった」「前は反応しなかった絵本に反応するようになった」など、小さな成長に見えることが大きな成長だと分かるようになったと感じています。

一人で育児をしていると一日、誰とも会話をしていないことが多々あります。仕事が始まってからは育児に参加できる時間がとても少なくなりましたが、話を聞いてくれるだけでも立派な育児だと言ってくれる妻に感謝しています。